

2002～2003日本自動車殿堂・優秀開発者賞

ホンダ・アコード開発チーム

マツダ・アテンザ開発チーム



ホンダ・アコード



世はまさに多様化の時代、乗用する車もミニバンあり、ワンボックスあり、さらにはオフローダー車を街中で乗ることも、現代では不自然に感じなくなった。こうした状況にあって、2002～2003優秀開発者賞を選ぶ研究・選考会議では、今回は「セダン」をテーマとすることに決定した。

この数年、何となく皆がセダンに背を向けていた間に、セダン自体もかなり変容したと考えられる。その変革がパッケージの革新にあった。これは近年の世界的な動向でもある。ひとりの傾向であった、流麗に見せたいあまりのタンブルホームの強調や、ルームスペースを減殺するウィンドシールドの極端な傾斜も影をひそめた。地を這うような車高の低さが、必ずしもセダンの魅力に結び付かない。価値観自体も変わりつつある。極端に身を縮めなければ乗り降りも不自由な、エントランス性の悪さも感じなくなった。ヘッドルームも十分に確保、レッグルーム回りのゆとりも増し、防音、防振も一段とその性能を高めている。セダンを見直すべき時期にきているのでは、というのが総論であった。

選考基準は、性能およびパッケージングに優れているとともに先進の技術を取り入れ、世界に誇る高質のセダンであることとした。新型車24車種を対象に慎重審議の結果、ホンダ・アコードとマツダ・アテンザがこの賞にもっともふさわしいとの結論に至った。

アコードは、北米市場でモデル・チェンジごとに圧倒的な支持を受けている車である。10月に発表された新型アコードは、走りの良さ、操舵フィーリング、安全性そして室内の高質化など一段とその洗練の度合いを増し、先進の高速道路運転支援システムを装着、これからのセダンの在り方を示唆している。

マツダ・アテンザは、欧州で高い評価を得てきたマツダ車のDNAを引き継いで発表された。新開発のプラットフォームを用い、性能および外観・内装ともに一新、走る楽しさを十分に盛り込んだ高性能エンジンを搭載、スポーティなセダンの方向性を提示している。



マツダ・アテンザ

